

技能五輪全国大会を通じた若年者の人材育成

～浦川設備興業(株)の取り組み紹介～

全国管工事業協同組合連合会

全国管工事業協同組合連合会は若者の管工事業界への入職や技能向上への取り組みを進めている。特に、技能五輪全国大会は国内の青年技術者の技能レベルを競うことで、青年技術者に努力目標を与え、技能に身近に触れる機会を提供するなど、技能の重要性、必要性をアピールして技能尊重気運の醸成を図る大会としている。

この度、技能五輪全国大会に継続して出場している会員企業にスポットを当て、大会参加に向けた訓練や技能者として必要な人格形成をどのように行っているかを探り、若者の入職促進への取り組みを紹介する。第1回目は継続して技能五輪全国大会に選手を送り出している香川県高松市の浦川設備興業(株)（高松市上下水道工事業協同組合）に登場いただいた（令和5年3月30日取材）。

（取材・(株)日本設備工業新聞編集部）



浦川設備興業(株)社屋

技能士資格からスタート

浦川設備興業(株)は香川県高松市において昭和44年に現相談役の浦川和秀氏が20歳の頃、個人で無臭トイレの埋設、汲み取り式トイレや浴槽の設置、打ち込み井戸の施工などを行っていた。その後、三洋電機の空調冷温水配管や地元設備会社の下請け、設備工事を行うとともに

に、アオイ電子(株)のクリーンルームの空調、配管工事の施工を手掛け、順調に業容を拡大した。昭和58年には浦川設備興業(株)を設立し、管工事業、給排水、空調のほか水処理設備事業を開始するなど業績も順調に推移している。

令和2年に社長に就任した浦川和倫氏は21歳の頃から設備工事に携わり、現場代理人の経験もある。高松市上下水道工事業協同組合役員や県の管工事業協会青年部会長も務めた。

社員は浦川社長を含めて14名と少数精鋭だ。社員は1・2級管工事施工管理技士、1級電気工事施工管理技士、2級土木工事施工管理技士、第1種電気工事士、1・2級配管技能士、給水装置工事



浦川和倫社長

主任技術者、浄化槽設備士、水道技術管理者資格を持つ。浦川社長は現場代理人として管理する立場にあり、配管の経験はない。「平成25年頃に1級技能士にチャレンジしましたがダメで、これは練習しなくてはいけないと思い、作品を何度も作り、自然にできるようになるまで取組んだ結果合格することができました。これまで賞状には縁がありませんでしたが、この嬉しさを若い者にも味わわせてあげたい、今いる社員にもこの経験をしてほしいと思い、2級の技能士から受験してもらうことになりました」と社員の資格への挑戦が始まった。

技能五輪で自信がつく

資格取得の機運が盛り上がりと同時に、平成25年の技能五輪大会に浦川設備興業(株)の柳倉惇志さんが初めて出場し敢闘賞を獲得した。「五輪から帰ってきて成長したなと驚きました。自分からすすんで仕事をするようにもなりました」と浦川社長は思わぬ成果に手ごたえを感じた。それから毎年チャレンジしてもら

おうと令和5年まで、平成28年を除いて毎年技能五輪全国大会の出場を果たしている。「出場した社員皆が自信がついたようです。嬉しいし、効果があったと思っています」と浦川社長は狙いが当たったことに満足気だ。

一方で、出場するまでが大変だ。令和3年の技能五輪大会に出場した永野智絵里さん、令和4年の大会に出場した小原郁貴さんは、組合からの指導や先輩が後輩を教えるスタイルを取り、練習に明け暮れる毎日を送った。全管連技術参与の阿部弘之氏にも派遣をお願いし指導を受けた。「阿部さんが来てガラッと変わりました。気づかなかったことに気がつきます。阿部さんの技術指導がなかったら、あそこまではいかなかったと思います。ただ、本人のヤル気がないとダメです」と浦川社長が言う通り、現場の仕事後に行う倉庫での練習はきつかった。

今ではチャレンジすることが会社のルールになっている。社員に応募する若者に面接で「五輪にチャレンジできるがやりますか。資格も取得してもらうための援助をするがやりますか」と尋ねると皆やりたいという返事が返ってくるようになった。「自分も技能士の資格が取れました。資格を持ちたいという若者には資格を取れというのが会社の方針です。資格はいくつあってもいい。ヤル気にさせる秘訣」と技術向上への取り組みが浸透している。

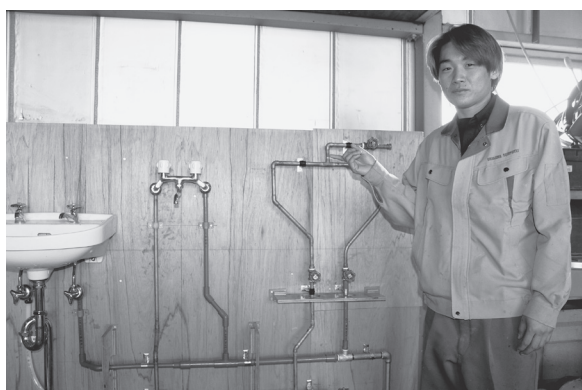
永野智絵里さん、小原郁貴さんも厳し



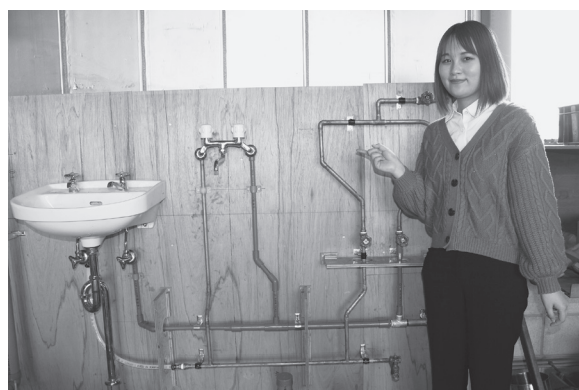
小原郁貴さん



永野智絵里さん



技能五輪に再挑戦の小原さん。今も練習に熱が入る



会社倉庫で練習した永野さん

い練習を経て臨んだ。永野さんは入社後、配管技能士と施工管理技士に受かることが第1目標だった。「ヤル気があれば一発で受かると思いました」と言う。自信はなかったが、先輩に勉強の方法を聞いて1回で合格した。技能五輪大会では時間内で完成させたことが嬉しかったと振り返る。「コロナ禍で無観客でしたが浦川社長、組合の方、阿部さんまで来てもらって何とか乗り切りました。練習は頭では理解できるが、いつになっただけなのかを考えすぎることが一番つらかった。チャレンジする気持ちはまだあります」と前向きだ。

小原さんは面接で五輪大会があると聞いて「面白そうだな、やってみたい」と

思った。令和4年の大会では、左官職の父がネット配信を見てくれたことが嬉しかったという。寸法でミスをしたが、再度チャレンジする。「何か賞をもらいたい。前回より腕前は上がっている」と意気込んでいる。技能五輪大会に出場してからは仕事が面白くなり、興味も湧いたと言う。

入社3年目の21歳だが「一人で現場を持てるようになりたい」が目標だ。24歳の永野さんも「現場を持つ方針なので、ちゃんとした資格を持たないと進めない」とこちらも意欲満々だ。

11月には愛知県で第61回技能五輪全国大会が開催されるが、小原さんが出場を予定している。「前は寸法のミスで



浦川社長（中央）と永野さん（左）と小原さん（右）

いい成績が出ず、悔しがっていた。リベンジするぞ。しかし楽しめって言っています」と浦川社長の期待も大きい。

管工事は大事な仕事だ

浦川社長は若者の入職について「毎年、高校の工業科や普通科に求人のあいつに行きますが、入ってきません。建設業は魅力がないと思っているのかもしれませんが。この地域は工場へ就職する若者が多いです。大手ゼネコンに就職する若者はいます。しかし、他の管工事業業には入ってもらえません。そういう中で若者が当社を選んでもらい有難いと思っています。2～3年に1人入社してくれば技術や指導がしやすいです。管工事や設備はメジャーではありません。電気はわかるが設備は間口が広くて仕事の内容が隠れてしまう。そのため、ライフラインを守る者として設備は大事な仕事なんだと理解してほしいし、設備の仕事をもっとアピールしていきたい。技術

を身に付けたいと思う若者が管工事業界や設備業界に来てほしいですね」と課題は多いが、ヤル気満々だ。技能五輪全国大会出場で若者が関心を示し、管工事業界に入職して腕を磨くことが何よりも期待されている。

多くの技術者、技能士を育ててきた浦川設備興業(株)。「初めは技能五輪大会に出ることが目的でしたが、今は入賞したいというのが新たな目標になっています。当社は1級技能士が7名いますので、技能グランプリも狙えます。永野智絵里さんも1級技能士に合格して技能グランプリにチャレンジしたいと言っています」と技術・技能向上への取り組みは技能五輪全国大会から技能グランプリへ一段ギアを上げた。今後の活躍が期待される。

浦川社長は香川県立高松工業高校機械科卒業後、2年間専門学校を経て平成5年に地元の後藤設備工業(株)に入社。平成12年、浦川設備興業(株)入社、令和2年



高松市上下水道工事業協同組合
松浦一郎理事長

社長就任。昭和47年生まれ51歳。趣味は18歳から始めたパンクバンド。今でもボーカルを務め演奏活動を行っている。年中、高知県でサーフィンも楽しむ。四国88か所巡礼も8回、オートバイや車で回るなど多彩だ。

水に関わる仕事をアピールして欲しい

当組合の技術・技能向上への取り組みとして、給水装置工事主任技術者の準備研修会や給水装置工事配管技能検定会の開催、また1・2級配管技能検定の準備研修会とその本番の試験の手伝いもしています。

一方、防災訓練も日本水道協会開催の訓練や、香川県や香川県広域水道企業団の防災訓練にも参加していますが、コロナ禍の影響もあり、中止を余儀なくされていました。コロナの流行前には組合員を交えての漏水修繕の練習も行っています。漏水修繕は経験が大事で、組合員の技術レベルは確実に上がっています。

現在、技能五輪に関しては、選手を出してくれる企業が少なく、出場しても2人か3人です。我々ができることは、技能五輪を見学する場をつくり、選手を激励するなどのサポートをすることです。特に、浦川設備興業(株)は技能五輪に力を入れています。技能五輪に出られるから入社しないかとアピールし、技能五輪を目指せるから入社する人もいますようです。継続的に出場していますので、先輩後輩の関係も強いですね。

小原郁貴さんと永野智絵里さんには技能五輪出場を経験したことで、それを大きな糧にして後輩の指導や水に関わる仕事をアピールして欲しいですね。自分の仕事は良いと言えるようになってもらいたい。プライドを持って他の人にも言い続けてほしい。2人みたいな若者が増えてほしいですね。技能五輪は練習を重ねないとできません。経験して出場できたことは管工事業界の基礎ができているということだと思います。浦川設備興業(株)の社員の皆さんには、これからも頑張ってもらいたいと思います。

昨年は千葉県の幕張メッセで技能五輪が開催され、組合の研修を兼ねて研修旅行を行いました。技能五輪を見学して良かったと思います。いろいろな県の人を見ることができ、勉強になりました。

引き続き、技能五輪に挑戦する企業には組合としてサポートを続けていきたいです。

(談)